

講義名	国際経営特論			授業形態	
担当教員	潘 志仁	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

生産・販売など経営活動が一國の国境を越えて行われるようになるとき、経営の国際化が始まる。企業は、これまで輸出や現地生産などの方法によって、経営の国際化をすすめてきた。これまでは、経営の国際化を表現するために、多国籍化という言葉も使われてきた。そこで、企業が多国籍する事実的知識と理論的知識を提供するのは本講義の狙いである。

到達目標

多国籍企業の事実的知識と理論的知識を習得する。
日本とアメリカの多国籍企業の成長戦略の実態を把握することができる。
日本の多国籍企業への条件を旨得することができる。

提出課題

毎回の課題を課す

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義中に課題の解説を行う

評価の基準

発表40点
期末レポート40点
講義への貢献度20点

履修にあたっての注意・助言他

受講生は教科書を持参のうえ、出席してください。授業後半の内容につき、プリントを配布する。
発言は「キン（君）」ではなく、「キン（金）」となり、ディスカッションへのコメントはプラス評価となる。
欠席・遅刻は総額とする。

教科書	.国際経営（第5版）.	吉原英樹	有斐閣	2200	
-----	-------------	------	-----	------	--

参考図書					

その他
本講義は原則対面で実施するが、通学困難者むけに別途オンライン授業を行う。そのオンライン授業の時間につきましては、受講生との相談のうえ、決める。

授業計画

1. 国際経営とは
2. 国際経営戦略と国際マーケティング
3. 海外生産・技術移転・研究開発
4. 国際経営マニフェストと北米・欧州のなかの日本企業
5. アジアの中の日本企業と新興国市場と日本企業
6. サービス企業の海外進出
7. 国際経営の発展期
8. 分断の国際経営
9. 雁行形態論
10. 日本企業の成長と国際経営戦略
11. 多国籍企業の不完全競争モデル
12. プロダクト・サイクル・モデル
13. 内部化モデル
14. 多国籍企業の未来像（1）
15. 多国籍企業の未来像（2）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の予習では、まず教員が指定する範囲を読んで、全体の講義内容を知っておきます。つぎに理論や概念の意味を中心にして調べておく、わからない概念や理論は赤線で示したうえで、授業ではとくに集中して教員に質問するように努力する。またその概念や理論に関する実際の動き・事実・実態について「ほんとうかな?」、「それは違くないか」、「ちよっとおかしいよ」と疑問を持つて論文を読む癖をつけてください。この一連の予習は3時間が必要とされる。
自らの復習では、授業では「何がまだ理解できていないか、や「なにが納得できていないか」を理論・概念と事実・実態に照らしながら、頭に叩き込みよう。その日のうちにしっかり2時間復習しよう。
こうしたような学習目標を達成するためには、予習と復習を続ける習慣を身につけよう。
期末レポートの準備時間：4時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は、特に本学ディプロマ・ポリシーにある「専門分野における研究能力または高度の専門性を必要とする職業等に必要能力を養む」ことを念頭に、講義内容を構成する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

オールラーニングを重視する講義なので、学生と教員のディスカッションをしながら、講義を進めていく。

実務経験の有無及び活用

備考